336
4.6.15

福県医発第783号（地）
令和４年６月15日

各医師会長　殿

福岡県医師会
会長　蓮澤浩明
（公印省略）

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について（再周知）

時下　ますますご清祥の段、お慶び申し上げます。

標記の件につきましては、令和元年11月11日付福県医発第2003号（地）の文書にて貴会宛ご連絡しました。

今般、標記につきまして厚生労働省より各都道府県衛生主管部（局）に対し標記事務連絡が発出されるとともに、本会に対しても日本医師会を通じて、別添のとおり周知依頼がありました。

本事務連絡においては、ヒアリの毒には、アルカロイド毒であるゾレノプシンのほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパーゼやヒアルロニダーゼなどが含まれています。そのため、ヒアリに刺された経験が無くてもハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要であり、ヒアリに刺された方がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを筋肉注射するなどの迅速かつ適切な救急処置をとる必要があるとされております。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、貴会会員への周知方よろしくお願い致します。

記

○特定外来生物ヒアリに関する情報サイト（環境省ホームページ）
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html

○ストップ・ザ・ヒアリ（平成31年改訂版環境省発行）
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/20190314hiari.pdf

○アレルギーについてアナフィラキシー（アレルギーポータル）
https://allergyportal.jp/knowledge/anaphylaxis/

---

小郡三井医師会より

学術担当理事　栁　大三郎
会長　島田昇二郎

日医発第号502（健Ⅱ）
令和４年６月９日

都道府県医師会
担当理事　殿

日本医師会常任理事
羽鳥　裕

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について（再周知）

標記の件につきましては､令和元年 10 月 23 日付(健Ⅱ135)の文書にて貴会宛ご連絡申し上げたところです。

今般、本件につきまして厚生労働省健康局がん・疾病対策課より都道府県衛生主管部(局)あて再周知に係る事務連絡がなされ、本会に対してアナフィラキシーに関する啓発について周知方依頼がありました。

つきましては、貴会におかれましても本件についてご了知いただき、貴会管下郡市区医師会、関係医療機関等に対する周知方につきまして、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

事　務　連　絡
令和４年６月３日

公益社団法人　日本医師会　御中

厚生労働省健康局がん・疾病対策課

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について（再周知）

ヒアリ対策については、平成 29 年６月に国内初確認され、関係省庁の連携により、水際での防除に取り組んでまいりました。

令和元年 10 月にヒアリに刺された場合の医療的留意事項について事務連絡を発出していますが、今般、再度の周知を図るため、別添の通り、都道府県衛生主管部（局）宛ての事務連絡を発出しました。貴会におかれましても、内容について御了知いただき、また、貴会会員等へ改めて周知いただくとともに、引き続きアナフィラキシーに関する啓発を行っていただきますようお願いいたします。

照会先　厚生労働省健康局がん・疾病対策課
桑原（内線２２９１）
知野見（内線２２９３）
宮本（内線２３５９）
（代表番号）０３－５２５３－１１１１
（直通番号）０３－３５９５－２１９２

別 添

事　務　連　絡
令和４年６月３日

都道府県衛生主管部（局）御中

厚生労働省健康局がん・疾病対策課

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について

ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について連絡いたします。

ヒアリは、南米原産で体長は 2.5～6mm 程度、体色は主に赤茶色の有毒のアリです。世界では北米やアジア等にも外来生物として侵入・定着しており、世界各地で大きな問題となっています。

ヒアリは、極めて攻撃性が強いとされており、刺された際には、アルカロイド毒により、熱感を伴う非常に激しい痛みを覚え、水疱状に腫れ、その後、膿が出ます。

さらに毒に含まれる成分に対してアレルギー反応を引き起こす例があり、局所的、または全身にかゆみを伴う発疹（じんましん）が出現する場合があります。欧米においては、アナフィラキシー症例も報告されています。

ヒアリの毒には、アルカロイド毒であるゾレノプシン（2-メチル-6-アルキルピペリディン）のほか、ハチ毒との共通成分であるホスホリパーゼやヒアルロニダーゼなどが含まれています。そのため、ヒアリに刺された経験が無くてもハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要です。

ヒアリに刺された方がアナフィラキシー症状を引き起こした場合、アドレナリンを筋肉注射するなどの迅速かつ適切な救急処置をとる必要があります。アナフィラキシー症状への正しい対応については、別添１「ヒアリに関する対応について（注意喚起）」（令和４年６月３日付け消防庁救急企画室事務連絡）も含めて、関係各所で御確認をお願いします。

貴部（局）におかれましては、本事務連絡の趣旨を御了知いただくとともに、貴管下の関係医療機関宛てに周知いただきますようお願いいたします。

なお、刺された時のアナフィラキシー症状出現時の対処方法を含め、ヒアリの特徴、生態、駆除方法等の参考として、以下も御参照ください。

〇特定外来生物ヒアリに関する情報サイト　（環境省ホームページ）
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html

〇ストップ・ザ・ヒアリ　（平成 31 年改訂版　環境省発行）
https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/files/20190314hiari.pdf

〇アレルギーについて　アナフィラキシー（アレルギーポータル）
https://allergyportal.jp/knowledge/anaphylaxis/

別 添

照会先　厚生労働省健康局がん・疾病対策課
桑原（内線２２９１）
知野見（内線２２９３）
宮本（内線２３５９）
（代表番号）０３－５２５３－１１１１

別添

事　務　連　絡
令和４年６月３日

各都道府県消防防災主管部（局）御中

消防庁救急企画室

ヒアリに関する対応について（注意喚起）

ヒアリの確認事例については、平成 29 年６月に国内で初めて報告されて以降、現在までに 18 都道府県で 85 事例が報告されており、この３年間では、港湾において女王アリを含む大規模な集団が確認されています。

ヒアリは、極めて攻撃性が強いとされており、刺された際には、痛みやかゆみ、発熱、じんましん、激しい動悸等の症状が引き起こされ、場合によっては、アナフィラキシー症状により、死亡することもあります。

救急要請時の対応については、「ヒアリに関する対応について（注意喚起）」（平成 29 年７月７日付け消防庁救急企画室事務連絡）によりお知らせしているところですが、下記に留意のうえ、引き続き適切に対応いただくよう、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨周知されるようお願いします。

また、「消防機関における救急救命士の行う救急救命処置の事故防止の徹底について」（令和３年 10 月７日付け消防庁救急企画室事務連絡）【別添１】でお知らせしたとおり、救急救命士の行う救急救命処置については、関係法令、通知、プロトコル等を再確認いただくとともに、法令遵守及び事故防止の徹底を図るよう、併せて周知をお願いします。

記

１　ヒアリに関する症状による救急要請があった場合には、傷病者の急激な容体の変化に留意し、傷病者に対して、「ストップ・ザ・ヒアリ」（環境省自然環境局野生生物課外来生物対策室発行）【別添２】を参考にした対応を取るよう指導すること。

２　救急現場における観察結果からアナフィラキシーを疑う場合、「ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について」（令和４年６月３日付け厚生労働省健康局がん・疾病対策課事務連絡）【別添３】及び以下の点を踏まえ、各地域のプロトコルに基づき、適切に対応すること。

（１）　傷病者が、アナフィラキシーショックにより生命が危険な状態にあり、あらかじめ自己注射が可能なエピネフリン（別名アドレナリン）製剤を交付されている者であった場合、救急救命士は、プロトコルに基づき、自己注射が可能なエピネフリン製剤による、エピネフリンの投与（筋注）を行えること。

（２）　傷病者が 15 歳以上（推定含む）で、増悪するショックである可能性が高い場合、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保及び輸液の認定を受けた救急救命士は、プロトコルに基づき、医師の具体的指示の下、静脈路確保及び輸液を行えること。

３　ヒアリ事例の発生情報等について環境部局との適切な情報共有を図ること。

（参　考）

○別添１　「消防機関における救急救命士の行う救急救命処置の事故防止の徹底について」（令和３年 10 月７日付け消防庁救急企画室事務連絡）

○別添２　「ストップ・ザ・ヒアリ」（平成 31 年改訂版　環境省発行）

○別添３　「ヒアリに刺された場合の医療的留意事項について」
（令和４年６月３日付け厚生労働省健康局がん・疾病対策課事務連絡）

○　特定外来生物ヒアリに関する情報サイト　（環境省ホームページ）
https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html

【問合せ先】
消防庁救急企画室　小塩専門官・久保田係長・辻野事務官
TEL：03-5253-7529（直通）
FAX：03-5253-7532
E-mail：kyukyusuishin@soumu.go.jp

別添１

事　務　連　絡
令和３年 10 月７日

各都道府県消防防災主管部(局)　御中

消防庁救急企画室

消防機関における救急救命士の行う救急救命処置の事故防止の徹底について

救急救命士の行う救急救命処置は、救急救命士法（平成３年法律第36号）及び関係法令に基づき実施されており、救急救命士制度の円滑な運用については、「救急業務におけるメディカルコントロール体制の充実強化について」（平成15年３月26日付け消防救第73号消防庁救急救助課長・医政指発第0326002号厚生労働省医政局指導課長通知）等により、都道府県メディカルコントロール協議会及び地域メディカルコントロール協議会の適切な運用を図るよう通知しているところです。

また、救急救命士の行う救急救命処置の事故防止等については、法令を遵守し適切な救急活動を行うよう、「消防機関における救急救命士が行う救急救命処置の事故防止の徹底について」（平成 30 年５月 15 日付け消防庁救急企画室長事務連絡）等、従来から通知等を発出し周知してきたところです。

しかしながら、今般、千葉県千葉市において、救急救命士が心肺機能停止前の傷病者に対し、医師の指示の下、薬剤（アドレナリン）投与を行った重大な事案が発生しました。

つきましては、関係法令、通知、事務連絡及び各種プロトコール等の再確認を行い、法令遵守及び事故防止の徹底を図るよう、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）並びに都道府県メディカルコントロール協議会及び地域メディカルコントロール協議会に対し、この旨周知徹底されるようお願いします。

【問合せ先】
消防庁救急企画室
小塩救急専門官、久保田係長、小渕事務官
ＴＥＬ：03-5253-7529
ＦＡＸ：03-5253-7532
E-mail：kyukyusuishin@soumu.go.jp

ヒアリのこと、正しく知っていますか？

# もし、ヒアリに刺されたら

ヒアリやアカカミアリの毒への反応は人によって大きく異なります。
体調に変化がなくても、20～30分程度は刺された部位を冷たいタオルや保冷剤などで冷やしながら安静にし、様子をみて下さい。その間、なるべく一人にならないようにしましょう。

## 全ての人にあらわれる症状

### 焼けるような痛み、かゆみ、膿（うみ）

刺された瞬間に、熱いと感じるような、激しい痛みを感じます。そして刺された部位に小さな赤みが出てきて、翌日には赤みの中央に膿がたまったようになります。軽いかゆみが出ることもありますが、その後は皮膚症状が徐々に改善していきます。

## ヒアリ類の毒にアレルギー体質を持っている人に起こる症状

### じんましん

刺された直後から刺された部分を中心に赤みや腫れが起こり、かゆくなります。時には全身にかゆみをともなう赤みやミミズ腫れ（じんましん）が現れることがあります。じんましんが出たり、体調不良などの異常を感じた場合は、すぐに医療機関（病院）を受診してください。

### 呼吸困難・血圧低下・意識障害など

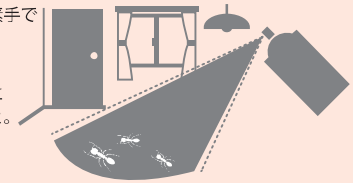
刺されて20～30分以内に、息苦しさ、声がれ、激しい動悸やめまい、腹痛などを起こすことがあり、進行すると血圧が急に低下して意識を失うこともあります。このような症状が現れた場合には、強いアレルギー反応による「アナフィラキシーショック」の可能性が高く、処置が遅れると生命の危険を伴いますので、救急車を呼ぶ必要があります。
「アリに刺されたこと」「アナフィラキシーショックの可能性があること」を伝え、すぐに治療してもらってください。刺したアリの死骸を持参すると、診断に役立ちます。

※ヒアリの毒には、ハチ毒との共通成分も含まれているため、ハチ毒アレルギーを持つ方は特に注意が必要です。

# 「ヒアリかな？」と思ったら

ヒアリ相談ダイヤル **0570-046-110**
または、お近くの市区町村に連絡してください。

| アリが少数の場合 | アリの集団や巣をみつけた場合 |
|---|---|
| スプレー式殺虫剤等で殺虫してください。 | 絶対に刺激せず、すぐにヒアリ相談ダイヤルまたは最寄りの市区町村に連絡してください。 |
| ●ヒアリかどうか正確に判別が必要な場合は、ヒアリ相談ダイアルまたは市区町村に連絡し、郵送または持参する。<br>●死骸であっても素手でさわらないこと。<br>●判別用のアリはセロハンテープに貼り付けないこと。 | ●アリや巣をつついたり、踏んだり、殺虫剤や熱湯をかけたりしないこと。<br>●駆除は、状況に応じて専門家に相談しながら実施する必要があります。<br>●ヒアリであると確認されるまでは、むやみに毒餌剤をおくことは避けてください。在来のアリやその他の生物を殺してしまい、かえってヒアリが定着しやすい環境をつくってしまうおそれがあります。 |



さらに詳しく知りたい方はこちらへ「特定外来生物ヒアリに関する情報」https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/attention/hiari.html

発行 環境省自然環境局　制作 一般財団法人自然環境研究センター
発行元 環境省自然環境局　野生生物課外来生物対策室　TEL 03-5521-8344　FAX 03-3504-2175
2019年3月発行

改訂版

別添２

# ストップ・ザ・ヒアリ

ヒアリって、どんなところにいるの？
私たちの暮らしに、どんな影響があるの？

どんなことに気をつければいいの？

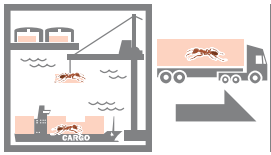
**ヒアリは、「火蟻」と書き、毒針で刺されるとやけどのような激しい痛みを感じます。
定着してしまうと、暮らしや産業にも大きな影響が出ます。
おそれすぎず、油断せず、いざというときにあわてないために、
ヒアリについて正しく知っておきましょう。**

環境省

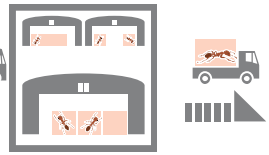
# どうして、ヒアリが日本に？

2017 年 6 月、日本でヒアリが初めて確認されました。
ヒアリは、本来、南米中部に生息するアリです。しかし、船や飛行機に積まれたコンテナや貨物にまぎれ込んで、1940 年代頃からアメリカ合衆国やカリブ諸島に次々と侵入し、2000 年代には原産地から遠く離れたオーストラリア、ニュージーランド、中国、台湾でも発見されるようになりました。日本へも同じような経路で海外からやってきたと考えられます。
国内では、次のような場所で確認されています。

**1** 国際貨物が到着する港・空港、コンテナや貨物の中




**2** 港から陸送されて倉庫に運びこまれた荷物の中





その他の例
製品の箱の中

# いったん繁殖してしまうと、根絶はきわめて困難です！

ヒアリが侵入した国では、莫大な費用をかけて駆除を行っていますが、ニュージーランドを除いて根絶には至っていません。ニュージーランドは、侵入初期に徹底した対処を行ったため、唯一根絶に成功しています。また、根絶後も再び侵入しないよう警戒を続けてます。
日本では、国が関係機関と連携して主要港湾等で定期的に侵入状況の調査を実施し、発見された際には緊急駆除とモニタリング（継続的な監視調査）を行っています。

**早期発見 早期防除 が重要！**

# 海外では、こんな場所に巣をつくっています。

ヒアリは、日当たりの良い開放的な場所を好んで巣をつくります。海外の定着国では以下のような場所で見られます。

公園

芝生・緑地

水辺

畑地

ヒアリは、大きな「アリ塚」をつくります。
アリ塚は地中で深く広くひろがっていて、放射状に地下トンネルが十数メートル先まで伸びています。
迷宮状にたくさんの部屋があり、女王アリと数千から数十万匹もの働きアリが集団で生活しています。

初期のアリ塚
他のアリの巣と区別しにくい

やや発達したアリ塚

大きく発達したアリ塚

巣の中では、たくさんの働きアリが、女王アリの産んだ卵や幼虫の世話をしています。

女王アリは巣に異変を感じると、トンネルを通って外へ逃げ出し、別の場所に新たに巣をつくってしまいます。

女王アリの寿命は6-7年程度で、毎年、25万個もの卵を産みます。

**注意**

**アリ塚が大きく目立つようになるまでには2～3年かかります。
その間に、ヒアリはどんどん増えたり拡がったりして、時間が経つほど根絶することは難しくなります。
大きなアリ塚を目印にヒアリを見つけようとするのではなく、そうなる前に発見して駆除することが大切です。**

# ヒアリって、どんなアリ？

外来生物法により特定外来生物※に指定されています

和名　ヒアリ（別名アカヒアリ）
英名　Red imported fire ant
学名　*Solenopsis invicta*

| 働きアリ | 女王アリ | 雄アリ |
|---|---|---|
| 体長 2.5 ～ 6 mm 程度 | 体長 7 ～ 8 mm 程度 | 体長 5 ～ 6 mm 程度 |
| | | |
| 一番数が多く、刺すアリです。 | 羽化した時には翅がありますが、交尾後には翅を落とします。 | 体は黒っぽく、翅があります。交尾のため巣立ち、数日で寿命を迎えます。 |

**ヒアリの仲間「アカカミアリ」**

ヒアリとよく似たアリにアカカミアリがいます。ヒアリほど毒は強くありませんが、アカカミアリも特定外来生物に指定されていて、注意が必要なアリです。

**※特定外来生物**　外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすものや、及ぼすおそれがあるもののなかから外来生物法に基づき国が指定した生物。飼育・運搬・保管・輸入・譲渡等が規制されています。

## 間違えやすい種類

**第1位　キイロシリアゲアリの女王**

9 月頃、オレンジ色の女王アリが巣づくりのため外に出てきて、目につきやすいので、「ヒアリではないか？」との問い合わせの多いアリです。

**第2位　アリグモ類**

アリグモ

ヤガタアリグモ

体長 5 ～ 7mm のとても小さなクモです。
"見慣れないアリ" と思われるためか、よく間違われます。

# 定着すると、私たちの暮らしにもさまざまな影響があります！

### ◆ 人やペットへの健康被害

刺されると強い痛みが生じ、体質等によっては強いアレルギー反応（アナフィラキシーショック）を起こすおそれがあります。*詳しくは裏面
犬や猫などのペットも、刺されると人と同じように、重い症状を起こすことがあります。

### ◆ 生活への影響

お花見やピクニック、BBQ、花火大会など、公園や河川敷でのレジャーを安心して楽しむことができなくなるかもしれません。
ガーデニング、家庭菜園にも支障が出ます。

### ◆ 電気設備・インフラ被害

電気設備（配電盤や変圧器、機械の内部）に巣をつくり、信号機や空港の着陸灯を故障させたりします。また、電線をかじって停電を引き起こしたり、ショートさせて火災の原因となることもあります。

### ◆ 農業被害・産業への影響

農作物をかじって品質や収量を低下させたり、家畜を襲ったりします。また農作業をする人が頻繁に刺されるため、海外では耕作放棄や離農者が増えるなどの影響が出ています。
輸入された商品などにヒアリが混入すると、物流にも大きな支障が出ます。

### ◆ 生態系被害

日本の在来アリを駆逐したり、小動物を捕食して減少させ、生態系のバランスを壊してしまいます。
海外では希少種にも影響が出ています。